消費者安全調査委員会からの一葉

第13号

申出事案からの情報発信　ver.9　令和6年9月12日

リチウムイオン電池を内蔵した小型家電の事故に注意！

●事故例）　持ち運びができるスピーカー

スピーカーを充電しながら使用中、大きな爆発音とともにスピーカー本体から白煙が発生した。商品に付属していたACアダプターを紛失していたため、代用品で充電していた。

●想定される事故原因

・仕様の合わないACアダプターを使用していた。
・電池または内部の電気回路に損傷などの異常が生じていた。

〈リチウムイオン電池の使用上の注意〉

主に発火や発熱の可能性がある場合

●本来の仕様と異なるACアダプターで充電したとき
●高温下で放置したとき
●強い衝撃を与えたとき

主に劣化や損傷の可能性がある場合

●水に濡れたとき
●長期間放置し、過放電（残量0%からさらに自然放電が続く状態）したとき

（注）この参考情報は申出事案に関連した情報であり、申出内容に対する調査結果や回答ではありません。

ワンポイントアドバイス

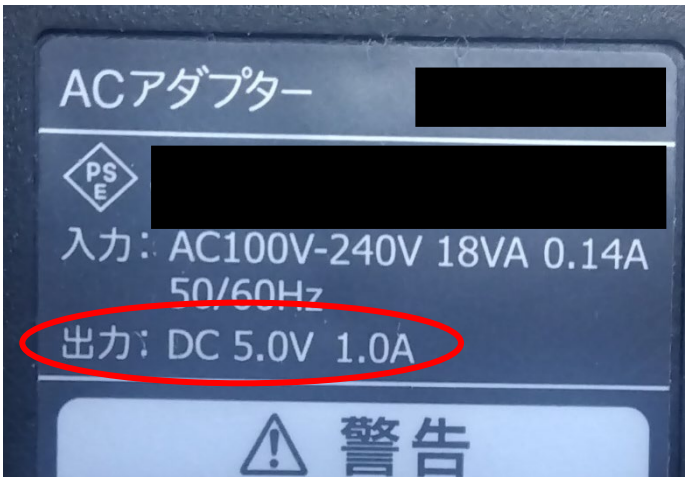
リチウムイオン電池の安全性は高まってきていますが、適切な充電と使用を心がけましょう！

● ACアダプターは正規品を使いましょう！
代用品を使う場合は商品のホームページなどで仕様を確認しましょう！

代用品の出力部分の表示で、
電圧(V)及び電流(A)は同じ値のものを使いましょう。

右写真のアダプターでは
電圧 5.0V　電流 1.0A
が仕様の内容になります。

またコネクター（接続部）は
同じ型のものでなければ
作動しません。
異なる型のものを無理に
差し込むと故障等の原因
になります。



●熱くなった自動車内や直射日光にさらされる場所での放置に注意！

●持ち運び時や設置時にぶつけたり落としたりしないように注意！

●入浴中などに使用するとき、濡らさないように注意！
（防水対応でない機種）

●長期間使わない製品も定期的に点検しましょう！
再充電がされないときはメーカーに問い合わせましょう！

＜委員コラム＞

「事故調査」とは？

（消費者安全調査委員会委員 河村真紀子）

事故を伝えるニュースで、「現在、警察が原因を調査しています」という言葉を聞いたことがあると思います。ニュースの“揚げ足を取る”つもりはありませんが、厳密に言うと、警察は事故の原因を調査するところではありません。警察が行っていることは、その事故に犯罪性があるか、法的責任を問うとしたらそれは「誰」なのかを捜査し、必要に応じて被疑者を逮捕することです。

一方事故調査とは、事故がなぜ起こったのかを調べ、今後同じような事故の再発を防止するためにすべきことを提言（意見、勧告とも言います）することです。このように警察の捜査と事故調査の目的はまったく別のものであることは、現状、日本社会で十分理解されているとは言えないような気がします。

事故調査の考え方が一番進んでいるのは航空の分野です。航空機事故調査の初期の頃は、エンジンの故障など技術的な欠陥が事故発生の主たる要因であり、再発防止策は技術的な改善におかれていました。

1970 年代前期には、エンジンの性能向上、コンピュータの導入など技術の向上により、問題は「人間」へと移ります。事故の原因には常にヒューマン エラーが関わっているという考え方から、エラー低減のために多くの対策が講じられました。しかし多くの努力にも関わらず、同じエラーは繰り返されたのです。

1990 年代に入り「エラーはゼロにすることはできない」ことに気づきます。個人のエラーを防止する局部的な対策だけではなく、エラーの背景となる安全上の問題を、事故をとりまく「環境」や「組織」を含む複合的な観点から分析し、事故の再発防止効果を強化する考え方がとられるようになり、現在に至っています。

尚、事故調査は責任追及を目的としないということは、国連の専門機関である「国際民間航空機関」（ICAO）の文書に明記されています。

消費者事故も、航空機事故と調査の考え方は共通しています。個人のエラーが事故の直接のきっかけであったとして、そのエラーを設計で防げなかったか、点検やメンテナンスの手法に改善点はないか、「組織」は安全の向上に取り組んでいたか、ルールや制度に改善すべき点はないか…。通常、事故の原因は決して一つではありません。従って再発防止策も複数の観点からたてられるのです。

事故調査に対する人々の理解がより深まることを願っています。